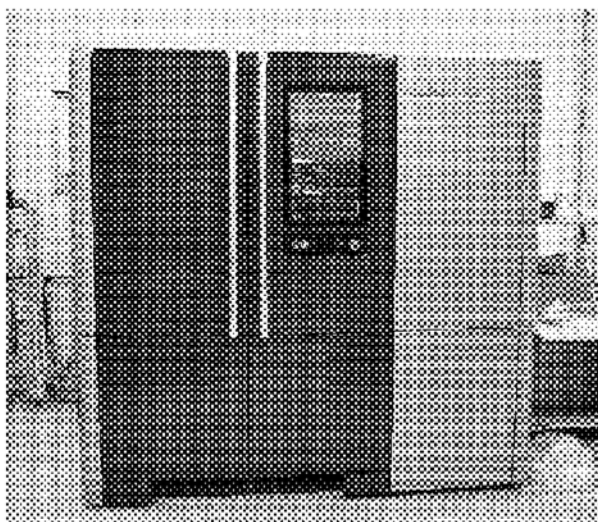


国盛化学、樹脂型を内製

射出成形用専用加工機導入



開発リードタイム半減

【名古屋】国盛化学（愛知県小牧市、塩谷陽一社長）は、射出成形樹脂型の内製に乗り出す。このほど樹脂型製作に数値制御（NC）樹脂専用加工機と卓上射出成形機を導入した。投資額は約4000万円。同社が手がける産業用ロボット向け樹脂部品などで、開発における試作金型を樹脂で製作できるようになる。これにより、開発リードタイムを従来比約半分の1カ月程度まで短縮し、新製品開発を加速する。

樹脂は金属に比べて製作することで金型の切削時間が短く済む。完成までの時間短縮とから、金型を樹脂で狙う。

今回導入したNC樹脂専用加工機は安田工業（岡山県里庄町）の「Labonos」。3次元（3D）データのみで加工できるため、専門の技術が必要ない。コンピュータ利用製造（CAM）は使う必要がない。

樹脂型の完成後は卓上成型機ですぐに試作でき、開発サイクルを上げられる。また同機の導入により、樹脂切削試作品を高精度で削り出せるようにもなった。

国盛化学は自社開発品で樹脂型製作のノウハウを蓄積した後、顧客にも金型の樹脂化を提案する。樹脂型は試作以外に小ロット生産も可能。加えて、金属製の金型に比べて保管コストが安く済むことから、大量生産から少量生産に移行した部品や保管用の金型の置き換えに向く。

データがあればすぐに、樹脂型を製作し直せるようになるため保管の必要もなくなる。まずは小型の金型での対応だが、分割した樹脂型を製作し低圧成形機で成型するなど、大きな金型の樹脂化方法も検討する。

国盛化学が導入した安田工業の樹脂専用加工機「Labonos」